



中央は内視鏡の操作を訓練できる装置

クター（客員）の阿部幸恵さん（東京医科大学病院シミュレーションセンター・センター長）は、こう説明する。

「ここでシミュレーションで用いる医療機器は、すべて実際の医療機関などで使われている。本物です。このほかにも、さまざまなシミュレーションの道具や精巧なマネキンを用意しているので、研修医が手術の手技を患者さんに用いて行う採血などの手技を経験したりすることができます」

利用者は医師や看護師にとどまらず、医学生や看護学生、医療機関に勤務している職員などと幅広い。沖

縄県内だけでなく、他府県の医療者も利用しているそうだ。同センターの齋藤誠一センター長は言う。

「当施設開設以来、利用者数は年々増加の傾向があり、今年度は延べ1万600人を見込んでいます。多くの利用者に活用いただけます」と、齋藤センター長は語る。

全国の医療水準の向上や、医療安全の向上などに貢献できると考えています」

センターを見学していくと、自についたのは、エレベーターの広さだ。医療機間にあつて、実際にストレッチを入れ1階の集中治療室から患者を2階の病棟に運ぶといった動的なトレーニングまでも、ここでは経験できる。

おもしろいのは、1階フロアの工夫だ。市街地や一般のクリニック、ER（救命救急室）など、その様子がプリントされた布がいくつか用意さ

れていて、それらをカーテンのようにひくことで、「市街地で人が倒れていたケース」や「クリニックに急性がんばれてきたケース」など、リアルティをもつて再現される。同センターで提供している

こうしたプログラムは、この分野では日本の一歩先行くアメリカピッツバーグ大学やマイアミ大学のものを利用しているといふ。

そこで、同センターで提供している「即戦力を求められ辞める新人看護師も」

ところでの患者が治療や看護を受けるとき、目の前にいる医師や看護師は、プロで高い技術を持っていると思いつかちだが、現実は必ずしもそうではない。誰もが始めは新人であり、日常の仕事のなかで経験を積むことで、技術や専門職としての能力を身につけていく。

医師の場合、国が義務化した2年間の臨床研修制度中に、ある程度の経験を積むことができるかもしれない。だが、看護師には必修の臨床研修制度がなく、勤め先の病院やクリニックで、先輩に教わりながら、臨床経験を積んでいくケースがほと

んどだ。しかも、今の看護の世界は、看護師不足の問題などもあって、どの医療機関でも新人看護師をじっくりと育てていくゆとりがない。

卒業してすぐに即戦力として働かないわけにはならない。そんな厳しい現実にさらされた新人看護師が負担を感じ、離職するケースもある。

もし、同センターのような高度なシミュレーションを積極的に活用できれば、安全に「失敗から学ぶ」という貴重な経験を積めるだろう。看護師である阿部さんは、現在は講師の一人としてシミュレーションを用いた教育を実践する。これまでに指導した利用者の様子をこう振り返る。

「シミュレーションの前後に評価表でチェックをすると、スキルも上がっていますが、効果はそれだけではありません。実技について「振り返り」やディスカッションすることで、次第に自分でどう動けばいいのか考え、発言できることになります」

医療者が成長する、その過程において「患者をしてくして一人前」という話を医療現場では耳にすることがある。しかし、それは患者の心情としては穩やかではない。外科医などは多くの手術、経験が重要なのはいうまでもなく、研修中の医師によつて患者が犠牲になる医療事故は、これまでも複数起きていている。

今回の取材では、悲劇を防ぐには、医療現場は科学的トレーニングやバーチャルリアリティなどの先進技術をもつと活用すべきだと痛感した。世界へ向けた医療産業分野での立場を目指す政府の方針にも寄与するのではないか。

病棟を再現したトレーニングルーム。奥はマジックミラーになっている指導官やインストラクターが研修者の様子をチェックすることができる



医療ジャーナリスト

伊藤隼也が行く!
ニッポンの医療現場 第59回

医師や看護師から熱い視線 疑似体験で経験を積む シミュレーションセンター

日常診療に追われる医療現場において、医師や看護師などに求められるのは即戦力だ。だが、教科書や専門書などで得た知識だけでは、十分に対応しきれないことが多い。そんななかで注目されているのが、シミュレーターを使ったトレーニングだ。日本最大規模の設備をもつセンターを取材した。

本物の医療器具を用い
実際の診療を想定

一般の人にはあまり知られていないが、昨今、医療や看護を経験できるシミュレーションを用いた研修が、教育と現場の橋渡し的な役割として、注目されている。

今回、取材で訪ねたのは、沖縄県西原町にある琉球大学。敷地の一部にあるのが、沖縄県や琉球大学などが共同で立ち上げた「おきなわクリニカルシミュレーションセンター」だ。設立は2012年。広さは2250畳もあり、シミュレーションセンターとしては、日本一の規模を誇る。

同センターは3階建てで、1階には手術や救急医療、集中治療を再現できるシミュレーションシミュレーターがある。2階には病棟を完全に再現した病室があり、そこでは患者の急変などの再現も可能になっている。まさに超リアルなシミュレーションセンターだ。同センターの設立に関わったチーフインストラクターは、3階建ての建物を3階建で、動物の臓器を扱えるウエットラボなど、専門的な技術を学べる多目的トレーニングルームがある。2階には病棟を完全に再現した病室があり、そこでは患者の急変などの再現も可能になっている。まさに超リアルなシミュレーションセンターだ。同センターの設立に関わったチーフインストラ



美術館を思わせる近代的な建物。眺望もよい